

## 菊池市の概要

熊本県北部の肥沃な平野に広がる菊池地域。菊池川は平野部の北東に位置する山々から流れ、その水は二千年もの間、この地で米作りを繁栄させた。農業はこの地域の生活と文化の中心である。この文化の多くは、11 世紀から 16 世紀初頭まで九州中央部の大部分を支配していた菊池一族の時代にまでさかのぼることができる。菊池一族の本拠地は、現在の菊池市となる城下町・隈府であった。

## 菊池一族の興隆

菊池氏の起源は、公家に仕えていた役人の藤原則隆とされている。九州の行政の中心であった、現在の福岡の近くに位置する大宰府は現在の菊池地方である場所に荘園をもっており、則隆はその荘園を治めるため、1070 年にこの地におもむいた。則隆は菊池姓を名乗り、菊池川に屋敷を構え、城下町・隈府の基礎を築いた。米の交易によってその子孫が繁栄し、菊池氏の支配を拡大した。

則隆の子孫は、巧みな外交術と戦場での活躍によって、一族の勢力を拡大した。菊池川流域の交易を独占し、平野部の農産物を販売することで財源を確保し、全国屈指の農地として発展させた。菊池一族の繁栄が頂点に達したのは二つの王朝、北朝と南朝が権力を争った 14 世紀のこと。菊池一族は南朝を支持し、南朝の天皇は既存の同盟関係の強化と新たな同盟関係の構築のために若き息子・懐良親王を九州に送り込んだ。

## 文化のレガシー

1348 年、懐良親王が隈府に到着すると、菊池一族は皇族にふさわしいおもてなしを披露した。松囃子（まつばやし）と呼ばれる新年の祝賀行事は、歌や太鼓、笛に合わせて踊る、貴族が鑑賞する芸能で、現在も続く伝統行事となった。菊池市の中心部にあるムクの巨木の前に設けられた舞台では、650 年以上前から、皇子が見た演目の再現が毎年行われている。この木は、懐良親王が植えたとも、地面に刺した杖から生えたとも言われている。10 月 13 日の松囃子では、舞台とムクの木の間に観客が立ち入ることは禁止されており、皇子の視界を遮らないよう配慮されている。

14 世紀末に南朝が滅亡すると、菊池一族は次第に衰退していく。そのような中、一族は地域の文化発展に力を注ぎ、武士や町人への教育にも注目した。1500 年代前半に菊池氏が他の武將に敗れた後も、その遺志は受け継がれている。現在の菊池市には、菊池氏の英雄の銅像が点在し、一族の居城跡の高台にはその偉人を祀る神社が建っている。

## 魅力的な景観

18 世紀以降、菊池はその東北の山間部のドラマチックな景観で有名になった。菊池川最上流の菊池溪谷は、かつて修験者の修行の場であった厳しい自然の中で、1772 年の紀行文に初めて景勝地として紹介された場所である。滝や数種類の原生林があり、多様な動植物を育んでいる。現在、溪谷は人気のハイキングスポットであり、菊池の自然環境に関する情報を展示した近代的なデジタルセンターもある。